

# 支部だより

## 群馬県北毛支部 キッズガードの委嘱 及び見守り活動

去る一月二十日(月)、  
渋川市役所において、渋  
川市から当支部長以下五  
人の委員が「キッズガー  
ド」に委嘱された。「キ  
ズガード」の目的は、昨  
年五月に発生した大津市  
の保育園児死傷事故を受  
けて緊急交通安全対策の  
一環として自治体が市民  
を委嘱し、保育所や幼稚  
園の原則半径五〇〇メ  
ートルに設置した「キ  
ズゾーン」の範囲内で、子



市長挨拶の状況

供たちが散歩などに出掛  
けた際、事件や事故に巻  
き込まれないよう安全確  
保に携わるものである。  
委嘱式で、高木市長は  
「子供たちは園内だけで  
なく、外でさまざまな物  
に触れることで健やかに

成長する。安全に行動で  
きるよう皆さんに活動し  
てほしい」と述べ、委嘱  
状と活動用の帽子、ビブ  
スを手渡した。  
去る二月七日、渋川市  
から要請を受け、当支部  
長以下五人の委員が参加  
し、総勢十一人で市第一  
一保育所周辺の「キッズ  
ゾーン」を散歩する園児  
に付き添い、車や自転車  
の往来に目を配るなど見  
守り活動を実施した。  
活動に先駆け、市長か  
ら「子供たちが楽しく安  
全に散歩出来るよう皆さ  
んで守っていき」とあ  
いさつがあり、オレンジ  
色のビブスと帽子を着用  
した「キッズガード」の  
見守り隊が、園児十四人  
が第一保育所から近くの  
「へそ地蔵」への往復を無  
事安全に散歩した。子供  
の活動を通過し、子供



保育園児及び「キッズガード」のメンバーの状況

たちを事件や事故から守  
ることの必要性を訴える  
とともに、今後も渋川市  
の要請に協力し、地域の  
安全と安心のための活動  
を継続して、大いに善行  
会精神をアピールするこ  
ととしていきたい。

## 長崎県佐世保支部 善行会活動を続けな がら介護を实践する には

支部長 濱武 隆



善行会の皆様にはいっ  
もお世話になり、感謝の  
気持ちでいっぱいです。  
平成二十年七月二十七  
日に十一月十一日は「介  
護の日」と厚生労働省よ  
り発表されましたが、い  
り日いい日”に決められ  
ました。  
明治生まれの母親は  
二十年前、九十二歳で寝  
たきりになり、言葉も発  
することができなくなり  
ました。  
介護施設に入れると二  
三時間しないとおむ

つは替えてもらえないと  
話しに聞いて、妻と相談  
し自宅で見守ることを決断  
し、かかりつけの病院に毎  
日の往診を頼むと快く引  
き受けて下さいました。  
このことは、介護未経験  
の私にとつて本当に心  
強い限りでした。  
先生に教えてもらって  
流動食を作り、指先で口  
を開いてやると喉に詰ま  
らせないよう一時間ぐら  
いかけて母に食べさせま  
した。

感謝せずにはいられません。  
今、振り返ってみると、  
微力ながらも無我夢中で  
介護してきてくれた私に三  
人で支えてくれていたの  
ではないかと思うように  
なってきました。  
最近、新聞やテレビで  
知ったのが近い将来、高  
齢者の増加による介護人材  
不足、介護に要する財源の  
増大などが予測されている  
ことから、今後ますます介  
護を实践するには難しい状  
況となります。  
今では、母親に介護を  
協力してもらった姉と妻の  
二人ともに二か所の介護  
福祉施設に入所し、介護  
を受けています。私は、  
就業しながら慣れない二  
人への支援活動と、掃除  
洗濯等の主婦業をこなす  
ながら無我夢中で単身生  
活に取り組んでいます。  
これからが自分の人生。  
希望と夢を持って前向き  
に、いくつになっても「足  
算人生」をずっと続け、  
まさしく継続は力なり、を  
地で行く決意であります。  
介護(支援)を实践す  
るには一日の目標を立て、

## ふる里自慢

### 北見地区支部

### 留辺蘂町温根湯温泉 山の水族館

当館は一九七八年、北海  
道留辺蘂町温根湯温泉に  
温根湯という小さな温泉街に  
当時の旧留辺蘂町立山の水  
族館郷土館として誕生し、



イトウによる迫力の  
いただきますライブ

幻の巨大淡水魚イトウや郷  
土資料などを展示する施設  
として長年地元で親しまれ  
てきました。二〇一二年に  
北の大地の水族館として全  
面リニューアルを行い、現  
在では当館でしか見られ  
ない様々な展示方法で年間約  
十万人のお客様に楽しんで  
いただいております。  
館内に入るとまず目に  
飛び込んでくるのが日本  
初の展示方法となる滝つ  
ぼ水槽です。この水槽で  
は頭上から流れ落ちる滝  
の真下に入り、悠々と泳  
ぐオシロココマの様子を  
眺めることができます。  
また日本で最も大きな淡  
水魚のひとつでもあるイト  
ウを多数展示しており、  
雄大な北海道の自然を感  
じることもできます。真  
冬にも見どころがあり、  
屋外に設置した川を模し  
た水槽ではおんねゆ温泉  
の厳しい寒さにより水面



滝の下の魚を観察できる  
滝つぼ水槽

が結氷し、凍った川の下  
でもたくましく生きる魚  
の様子をご覧いただく事  
ができます。  
他にもおんねゆ温泉の  
温泉水で飼育した大きな  
熱帯魚や魚とのふれあい  
コーナーなど生き物と地  
域の魅力が詰め込んだ水  
族館です。季節に応じて  
様々な表情を見せてくれ  
る魚たちを沢山展示して  
います。  
これから暖かくなる季  
節、清涼感たっぷりの水  
族館へぜひ起こしください。

## 香川県支部

### 秋季善行表彰伝達式 並びに懇親会の開催

令和元年度秋季善行表  
彰伝達式、懇親会を令和  
元年十二月十五日(日)  
午後四時から宇多津町ホ  
テルアネシス瀬戸大橋で  
開催した。

秋季善行表彰伝達式は、  
日本善行会の歌を流し  
て(音声)を少しおさえて  
大浦文事務局長の司会  
で、北見第一支部長の開  
会の言葉に始まり、西村  
一夫秀支部長から受賞  
者公共生活への貢献で香  
川幸夫様、青少年指導の  
貢献で増尾明善様、杉本  
義照様、星川叔子様、金  
泥千代様に表彰状及び記  
念品が伝達された。  
その後、西村支部長か  
ら各受賞者へのお祝いの  
言葉、ご来賓の綾宏坂出  
市長、有福哲二香川県議  
会議員、瀬戸隆一元衆議  
員議員よりご祝辞を賜り



ました。その後、受賞者  
を代表して香川幸夫様よ  
り謝辞の後、宮本隆義副  
支部長の閉会の言葉で閉  
会し、そして記念写真を  
撮影した。  
引き続き、懇親会を行  
い西村支部長、綾宏坂出  
市長の挨拶があり、後、北  
見支部長様の乾杯の音頭  
で宴会に移り、和やかな  
雰囲気の中で各受賞者よ  
り受賞の喜びと現在の活  
動状況の報告、カラオケ  
などで歓談した。最後に  
宮本副支部長より香川県  
支部の益々の発展を祈り  
つつ散会した。

## 善行川柳

選者 東 逸平

〇人和して 五輪がつなぐ 世の平和 北海道 齊藤 勉

評/本当にこうなつてほしいですね。現実には、一年延期ということ、新型コロナウイルスという見えない敵が憎いですね。 宮城県 阿部 澄江

〇ありがたや 余生をつなぐ 善行会 宮城県 阿部 澄江

評/老いの心境が良く表れています。善行会を余生に結んだ言葉が良いですね。 静岡県 真野 和代

〇自転車も 標識守つて おぼえよう 静岡県 真野 和代

評/自転車の事故が多発しているんですね。そういうえば、自転車も自動車も「車」なんですね。道路交通法では、自転車は軽車両と位置付けられ、歩道と車道の区別のあるところは車道通行が原則とされているのに、子供も乗せて歩道を走る自転車が多いですね。 大分県 佐藤 満洋

〇誰も持つ 優しい心が 福祉生む 大分県 佐藤 満洋

評/そうですよ。誰もが持っている優しい心が、人のためになる奉仕や福祉の花を咲かせるのですよ。

## 計報



去る 四月、日本善行会参  
行会参  
与の須田耕作氏(九  
十五歳)東京都泊江  
支部顧問が逝去さ  
れました。  
泊江支部は昭和  
五十二年に創設され  
須田氏は、平成七年  
から同二十年まで泊  
江支部長として会員  
増強と支部活動に尽  
力、また、日本善行会  
理事として同十一  
年から同二十年まで、  
その後参与として本  
会の発展に多大の貢  
献をされました。  
ここに謹んでご冥  
福をお祈り申し上げ  
ます。

## 入会のおさそい

一般社団法人日本  
善行会では、善行の  
表彰並びに善行精神  
の普及と実践を通じ  
明るく住みよい社会  
環境づくりに努めて  
おります。活動をご  
支援いただくために、  
広く会員をおさそい  
下さい。

- 会員の種類
- ① 普通会员(正会員) 個人 年額 五千元
  - ② 特別会員(正会員) 個人 年額 一万元
  - ③ 賛助会員 個人 年額 三万円
  - 個人 年額 千円以上
- ※明るいニュース年間  
購読料五百円含む